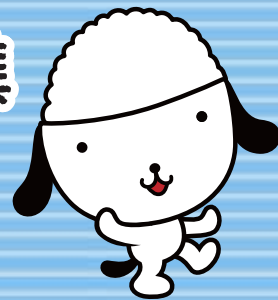


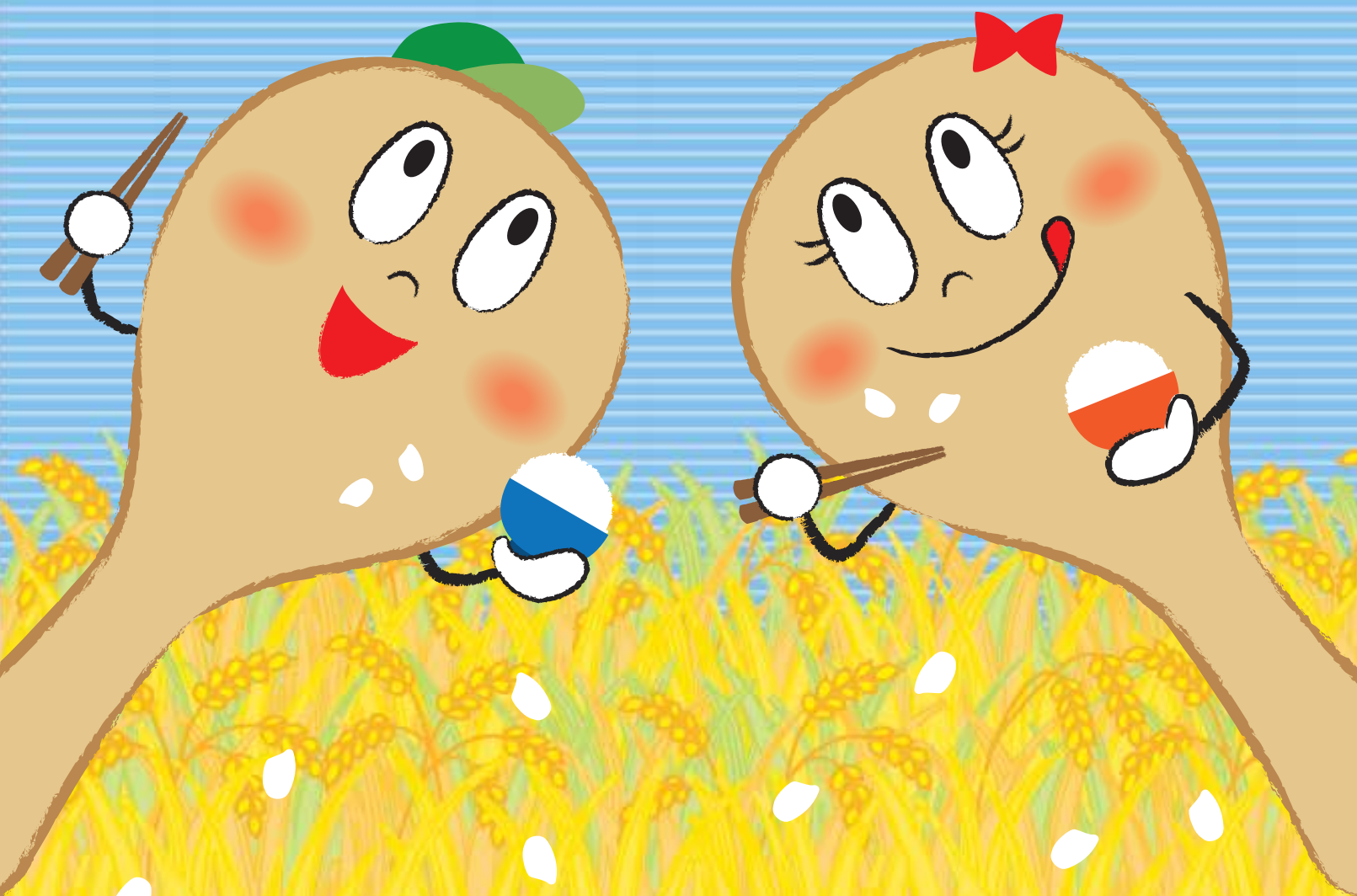


第39回

作文・図画コンクール作品集



お米とわたし



JA岩手県中央会

目次

◆ごあいさつ.....	1
JA岩手県中央会 会長 田沼 征彦	
◆図画部門入賞作品.....	2
◆作文部門入賞作品.....	8
◆総評.....	14
審査委員長／岩手県教育委員会 委員長 八重樫 勝	
◆図画部門を審査して.....	14
元岩手県国公立幼稚園協議会 会長 伊藤 満久	
◆作文部門を審査して.....	15
盛岡市教育委員会 学校教育課 指導主事 小林 満	
◆コンクール入賞一覧.....	16
◆コンクール概要.....	20



いであいわ

JA岩手県中央会

会長 田沼征彦

第三十九回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、作品をご応募いただきましたみなさまに厚くお礼を申し上げますとともに、入選された方々には心からのお祝いを申し上げます。

このコンクールは、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食・稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般について学びを深めてもらうとともに、稲作農業の多面的機能とお米・ごはん食の重要性を周知することを目的として実施いたしております。

三十九回目を迎えた今回も、県内各地から作文一〇〇点、図画二六七点もの力作が寄せられました。この中から全国コンクールにおいて、作文部門において全国中央会長賞受賞作品が一点あったほか作文部門二点、図画部門二点が優秀賞に入選いたしました。また、東日本震災からの復興途中の厳しい状況のなか、被災地域の学校からも作品を応募いただきましたことにお礼を申しあげます。

わが国の農業は、全ての品目の関税を撤廃することを原則とするTPP（環太平洋連携協定）という貿易等に関する協定への参加問題に直面しております。関税撤廃により大規模生産が可能で外国から農畜産物が大量に輸入された場合、わが国の農業は壊滅的な打撃を受けてしまいます。食料自給率の低下は、私たちの食生活を危うくすることになってしまいます。

また現在、政府では、農業の成長産業化を実現するため、効率化を

重視した様々な農業改革を行おうとしております。しかし農業は効率だけでは語れない産業であり、命の源である「食」を支えるだけでなく、地域の文化をつくり、環境を保全する役割も果たしております。

これらの状況を踏まえ私たちJAいわてグループでは、本県農業の振興に向けて、関係機関と連携をはかり様々な取組を進めて参る所存であります。

JAグループでは、心と体を支える「食」の大切さを考え、安全・安心な国産・地元産農畜産物をみなさまに提供するとともに、それを生み出す農業の価値を伝え、国産・地元産農畜産物と日本の農業のファインになっていただくという「みんなのよい食プロジェクト」の取組を全国的に進めております。「食」の未来をつくることは、日本の未来をつくることにつながります。その中心となるのが、日本の食文化を築いてきたお米です。

このコンクールを通じて、家族や友人を大切にする心、地域の人たちへの感謝、伝統ある食文化への敬意、そして心を込めて育てたお米のおいしさや農業への素晴らしさに気づき、これからの農業の未来について考えていただければ幸いです。

最後に、小・中学生のみなさまの豊かな心を育んでいくためにも、学校の先生方をはじめ、関係するみなさま方のご支援とご協力により、このコンクールをますます発展させていただきまますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

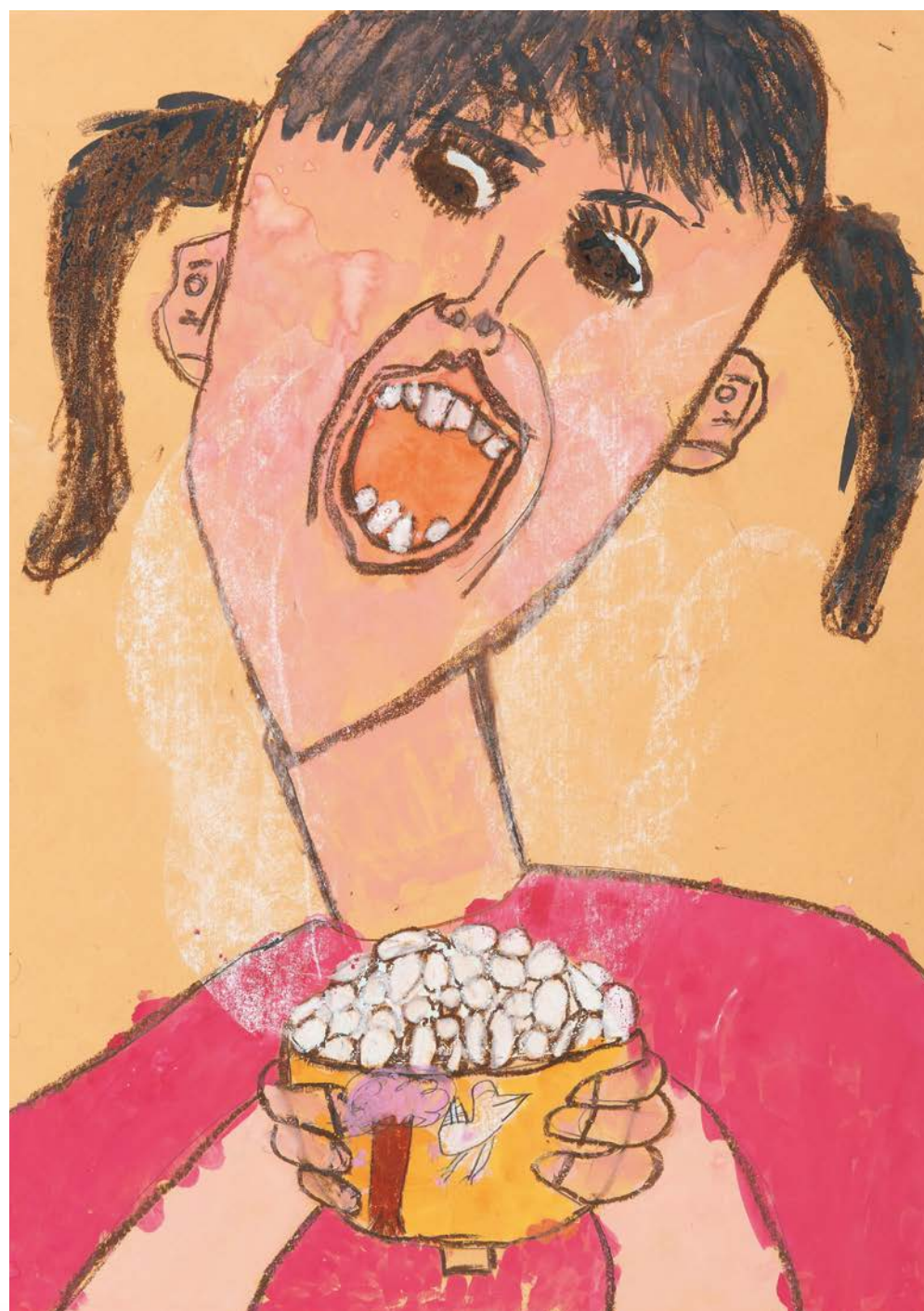
図画部門

ぜんこくゆうしゅうしょう
全国優秀賞
いわてけんきょういくちょうしょう
岩手県教育長賞

「たきたてのごはん 大すき」

ふじ わら はる な
藤 原 悠 奈

はなまき しりつうちかわ め しょうがっこう おん
花巻市立内川目小学校 1年



図画部門

ぜんこくゆうしゅうしょう
全国優秀賞
いわてけんちじしょう
岩手県知事賞

「お米を食べて スタミナアップ!」

お が さ わ ら し お り
小笠原 詩 織

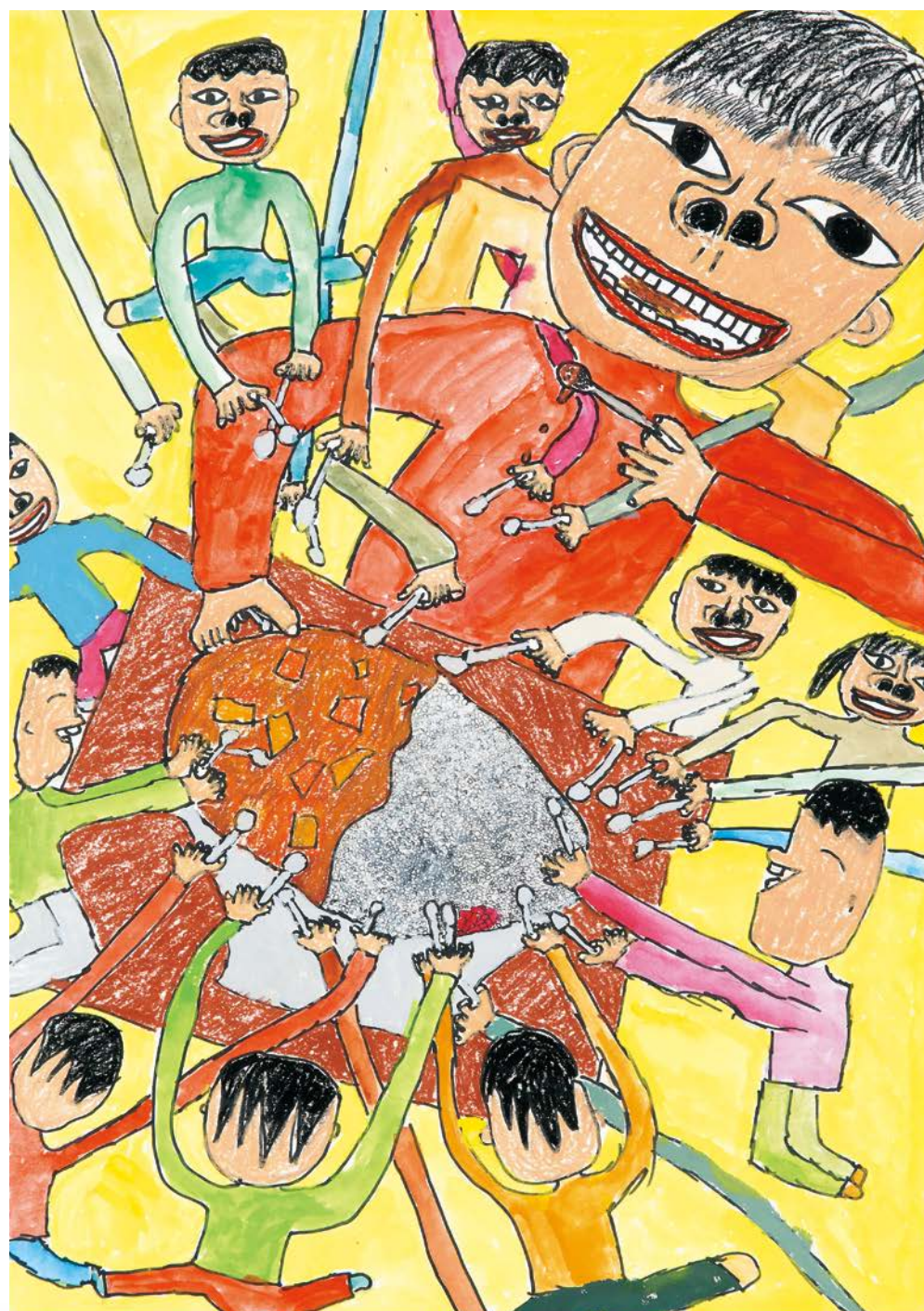
おおふな と しりつよしはまちゅうがっこう おん
大船渡市立吉浜中学校 3年



「みんなで食べよう。」

お が さ わ ら
小笠原 輝

きたかみ しりつくるさわじりきたしょうがっこう
北上市立黒沢尻北小学校 6年



「バイキングでごはん」

す ず き と も や
鈴木 智也

おうしゅう しりつまえさわしょうがっこう
奥州市立前沢小学校 6年



「母のおにぎり」

おお ひら みち か
大 平 宝 花

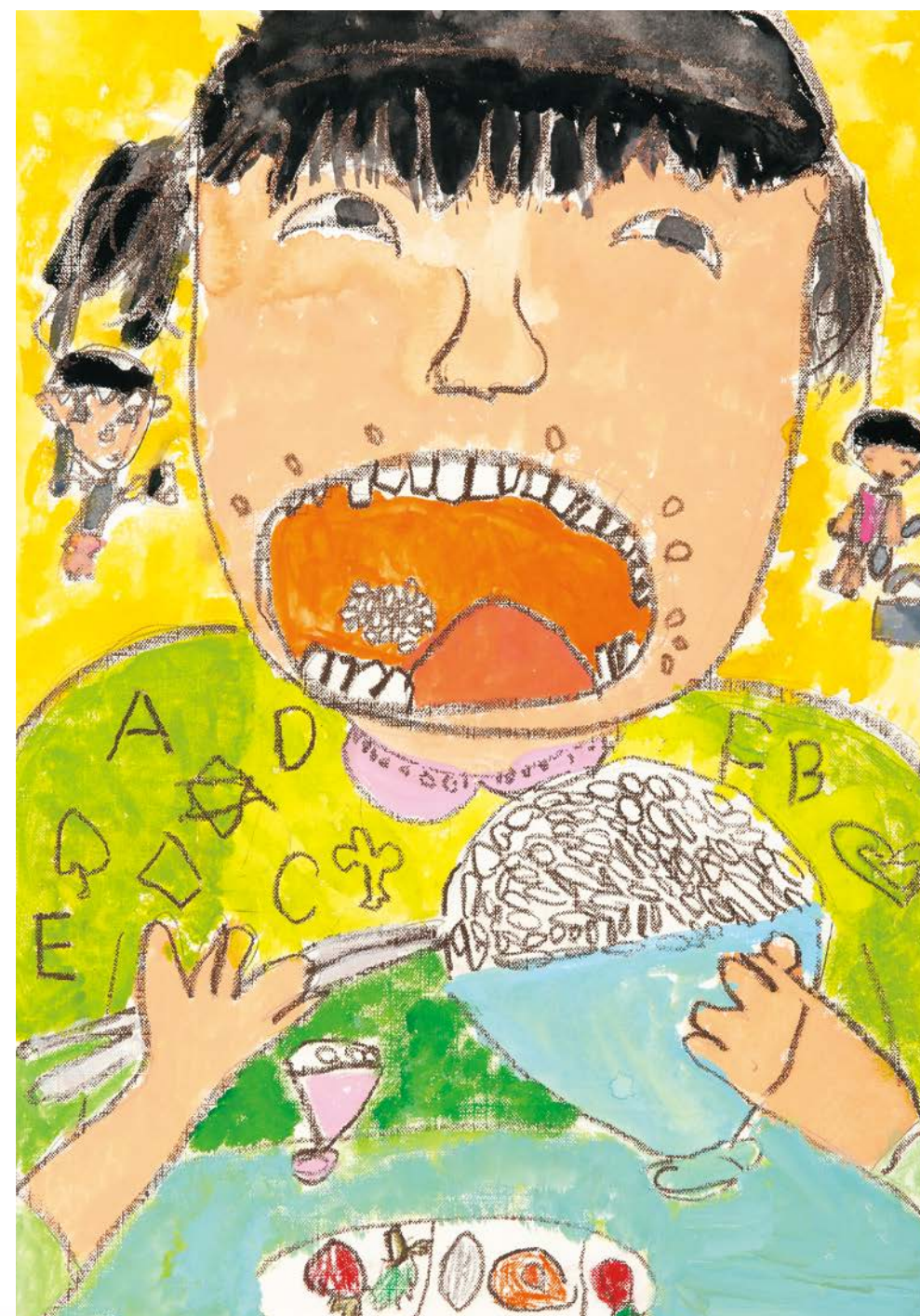
もりおか しりつしたこう じちゅうがっこう ねん
盛岡市立下小路中学校 3年



「ごはんはおいしい！」

かわ むら よつ ば
川 村 幸 葉

きたかみ しりつ えづり こしょうがっこう ねん
北上市立江釣子小学校 1年



「世界で一番おいしいもの」

さとう あさひ
佐藤 旭

みやこしりつせんたくしやうがっこう ねん
宮古市立千徳小学校 6年



この夏、私のお姉ちゃんはアメリカにホームステイに行きました。二週間という短い期間でしたが、お姉ちゃんを通して感じたことがあります。

私もそうですが、お姉ちゃんもあまり沢山食べる方ではありません。小学校の頃、お姉ちゃんの担任の先生が、「光ちゃんは、給食費が半額でもいくらいだね。」といったくらいです。こういうのを食が細いというのだそうです。

こんなお姉ちゃんなので、好き嫌いも沢山あります。お肉はあまり好きじゃないし、玉ねぎは食べられません。だから、ホームステイに行くとき、「好き嫌いを言っていないで、せっかくの機会なのだから、新しい食べ物にもチャレンジしてみなさいね。」と、お母さんにも言われて出かけました。

ホームステイの間、お姉ちゃんから毎日、メールがとどきます。私はどんな話なのかいつもわくわくしてメールを開けるのですが、毎日毎日食べ物の話ばかりです。こんなものを食べた、こんな味だったとか、そんな内容が大半をしめます。お姉ちゃんは、それほど食べ物に対して興味を持っているような人ではなかったのに。メールを楽しみにしている家族の方もあまり食べ物にこだわりのある者はいません。なのに、なんで食べ物の話ばかりするのだろうか？

一週間位する頃、なんだかわかるような気がしてきました。それほど気にしたことはなかったけれど、実は食とはすごく人間の中で大きな割合をしめているのだと思います。

す。日本に帰ってきたお姉ちゃんがい었습니다。

「ごはんが、おいしい。」

外国にももちろんお米はありますが、野菜の一種のような使い方をしたりするそうです。長いお米、日本のお米にそっくりな形のお米いろんな種類があるけれど、日本のお米ほどおいしくないそうです。

「日本のお米が一番おいしい。」

と、ごはんを梅干しだけをもうくとおいしそうに食べるお姉ちゃん。その様子を見ると、『日本のお米が一番おいしい。』というのは本当にちがいます。

お姉ちゃんの話聞きながら、意識しながら、ごはんを食べました。いつも食べている味。意識せず毎日食べていたけれど、私達は世界で一番おいしいものを食べて生きているのです。ごはんの味は、いつもおかずの味に比べていたけれど、ごはんそのものがおいしかったこと。世界で一番おいしいごはんをかくし味にしておかずを食べているなんて、私達はとてもぜいたくな民族です。世界一おいしいお米を主食にしていることを誇らしく感じます。その日の私の『ごちそうさま』は、いつもより大きい声になりました。

「米づくり、そして文化」

ささき えりか
佐々木 恵利佳

りくぜんたかたしりつたかたひがしちやうがっこう ねん
陸前高田市立高田東中学校 2年



去年の大晦日のこと。家に門松が届けられた。高さが三十センチくらいの小さなものだが、松、竹、梅があり、南天の実や稲穂が彩りを添えていた。それは、近所に引越してきたおじさんが、わらをもらったお礼として作ってくれたものだった。全てが手作り、材料も地元のものを使っている。特に、わらで編んだ縄はみことなものだった。私は、正月用のしめ縄は「わら」で作られていることに改めて気づかされた。

わらは、稲刈りの後、脱穀して茎のみを乾燥させたもの。新しい年を迎えるにあたって、わらで縄を編む。編んだ縄に、松葉や紙飾りをつけて、しめ縄になる。

母から、しめ縄作りについて話を聞いたことがある。母の祖父は、厳格な人だった。母が幼少の頃、しめ縄作りは祖父の仕事で、毎年恒例になっていた。十二月の半ばを過ぎると空気が張り詰めてくる。祖父が、しめ縄作りに取り掛かるからだ。まず、太さや長さのそろったわらを選別することから始まる。次に、わらをつぶさないように丹念にほぐしていく。こうすることで、わらの硬さがとれ、編みやすくなる。いよいよ編む段階になるのだが、祖父は、手をきれいに洗い、うがいをして、自分自身を清めた。特別なものを作るという祖父の気持ちが分かる。祖父の性格が表れている。そして、手を水で湿らせ、数本のわらを手の平で、もむようにして、より合わせていく。無心でよったしめ縄は、みことな出来栄であったという。

わらが、しめ縄の材料として用いられたことは必然のことと思う。米を作ることは容易なことではない。五月の頃に田植えをして、収穫するのは、十月頃。田植えをする準備まで含めると、半年は優にかかる。収穫までには、台風や干ばつ、低温などの自然災害に見舞われることもある。手間をかけて収穫した米のありがたさは、言うまでもない。米は大切な主食となる。わらは、捨てられることなく神聖なものとして見事に生かされた。わらの持つ、保存がで

るという特性は勿論のこと、神と関連する物としてふさわしかった。

私の住む陸前高田市は、震災から三年余りになるが、津波で田んぼが被害を受け、米づくりができない状況が続いている。被害は、半端ではない。埋もれてしまった田んぼの土砂やがれきの撤去作業だけではなく、塩害が課題となった。除塩作業を行って、やつのことで田んぼとして使える。このような作業をくり返し行い、一年、また一年と田んぼが少しずつ元に戻っている。「米づくりをしよう」という強い思いが分かる。

田植えの時期には、青々とした田んぼが、そして稲が実る頃には、黄金色の田んぼが広がっている。四季折々の風景をかし出す田んぼ。稲の成長は、力強さを私達に感じさせ、生命力をもらっていると思う。

米づくりは、時間と労力を要する。ある時は、大自然との戦いである。苦労がむくわれずに、収穫がゼロの可能性も考えられる。このことは、米づくりが始まった頃から、現代に至るまで、永遠の課題であると思う。

津波で田んぼに被害を受けた人達は、根気強く、一からやり直している。私から見れば、気が遠くなるような作業の連続だ。このような一人ひとりの努力や情熱が、日本の米づくりを支えている。

いただいた門松には、おじさんのメッセージが添えられていた。

——米が豊作でありますように——

あたたかい心遣いを感じられる。私も願う。

——大きな台風で、稲が倒れませんが——

米づくりをしている人達の思いは、もっと深刻なことだろう。

今日もおいしいご飯を食べられることに感謝して、「いただきます。」

「お赤飯が伝える感謝の気持ち」

きく ち みずき
菊池みずき

おうしゅう しりつ き ざい く しょうがっこう おん
奥州市立木細工小学校 5年



「お赤飯作って。」
妹の美桜が言います。お正月の準備の日、わたしも美桜といっしょに、
「そう、そう、今から作って。」
と言うと、ひっこは、
「分かった。んで、作つか。」
もち米をむし始めます。時間がかかるので、わたしたちは待ちきれません。
「ひっこ、まだなの。」
「もう少しだがら、待ってろ。」
もち米のいいにおいがしてきます。そろそろ出来上がりそうです。
「味見してみるが。」
ひっこが言います。わたしたちは、少し食べては、
「まだ味見しないよ。」
と言って何回か食べます。
「もう味見はいがべ。神様にあげんの少なくなるじゃ。」
ふかしたもち米はそれだけでもおいしいです。小豆を入れると赤い色がつきます。お赤飯の出来上がりです。神様にあげる時、ひっこに、
「昔、戦争の時や戦争が終わったばかりの時、お赤飯なんて食べられねがつたんだ。ありがとうございました。心の中で言うんだぞ。」
と言われました。
それで、お赤飯がどのようにしてできたのか調べてみま

した。そうしたら古代米という言葉が出てきました。古代米は、じょう文時代に中国から伝わったお米で、あれは土地でも育つと書いてありました。でも、たくさんできなくて大切な物だったので、神様にお供えしたそうです。お供えしたのは、赤米だったそうです。だから神様にあげるのは、お赤飯なんだなと思いました。
魚つかみの時、春男さんが古代米を使ったおにぎりを持ってきてくれました。
「本当にお赤飯みたい。」
「色は古代米から出てるんだ。」
春男さんが教えてくれました。昔の人が食べていたものを食べるなんてふしぎな感じがしました。
木の実や魚などもお供えされていたと思うけれど、自分たちで作った物はお米だけだったんじゃないかと思えます。自分たちで作ったものでもたくさんできないので大切にしたいなと思います。だから、お米ができてありがたうという気持ちと、もつとしゅうかくできるようにとお供えしたのだと思います。今でもお正月などにお赤飯をあげるのは、ありがとうの気持ちを表していると気づきました。
じょう文時代の人から今の人までお米をしゅうかくできていることにありがたいという気持ちを持っていることは同じだと思います。それがお赤飯に表れている気がします。みんなにも感謝の気持ちが伝えられてきたお米をたくさん食べてもらいたいです。

「おじいちゃん、ありがとう」

お や ま き ら
小山希来

いちのせき しりつ ちろ ね ひがししょうがっこう おん
一関市立室根東小学校 3年



六月のことです。わたしが学校から帰ると中に、おじいちゃんが田んぼにいました。
「おじいちゃん、ただいま。何をしているの。」
とおじいちゃんにあいさつすると、
「おかえり。イネがすすくすくそだつように、草をとっているんだよ。」
とおしえてくれました。田んぼの草とりは、ずっとこしをまげているのでとてもたいへんそうです。わたしは、おじいちゃんにはないしよで草とりの手つだいをしました。学校の帰りに少しずつやりました。おじいちゃんの仕事をすこしでもへらせたのでよかったと思っています。
田んぼに草がなくなったとき、
「おじいちゃんつて、こんなに大へんな仕事をしていたんだなあ。おじいちゃんが心をこめて作っているから、家のごはんがおいしいのかなあ。おじいちゃんすごいなあ。」と気づきました。それにくらべて、わたしの草とりは、ほんの少いで、お手つだいをした気になれませんでした。
どうしてこんなに大へんなのにおじいちゃんはお米作りをつづけているのだろうと考えました。前に、おじいちゃんが言っていたことを思い出しました。
「家族に、おいしいごはんを食べさせるために作っているんだよ。だから、大へんでもがんばって作るんだよ。」
それを聞いてわたしは、おじいちゃんつてなんて、すてきなんだろうと思いました。わたしも、そんなおじいちゃん

にお手つだいをしてもっともつとやくにたてたらいいなあ、と思っています。
家に帰ると、いつものように夕ごはんができています。「いただきます。」
かならずごはんを先に食べます。おいしい。おじいちゃんのおかげです。ありがとう。



「妹のために～私のお米料理大作戦」

たか はし なお か
高 橋 尚 佳

はなまき しりつなんじょうちゅうがっこう ねん
花巻市立南城中学校 3年



私には十二歳年下の妹がいる。妹はとても食いしんぼうで、特に白いお米が大好きだ。だが、離乳食を食べ始めた頃はお米は食べようとしなかった。私は、お米は生きていく中で重要なエネルギー源と知っているの、妹に好きになってもういたくて、妹が食べられるようなお米の料理を工夫して作ることにした。

最初は何かから手をつけていいのかわからなかったの、母や祖母に調理の仕方を聞いたり、料理のレシピの本を見たりしてみた。その中から妹が好きそうな料理を作ってみた。最初は、おかゆにしらすを入れ、混ぜたものを食べさせてみた。すると、口には入れたが、すぐ出してしまった。私はガッカリしてしまった。

でも、私は妹にお米を食べてもらいたいという一心で、新たな料理を考え始めた。今度は、インターネットなども使ってみた。

次に作ってみたのは、ゆで卵の黄味を崩しておかゆの中に入れたものだ。さらに、妹が大好きな湯むきしたトマトを細く刻んだものも入れた。ゆでた卵の黄味と、細く刻んだトマトは喜んで食べてくれたが、やはりごはんは食べてくれなかった。でも、細く刻んだトマトとゆでた卵の黄味は喜んでくれたのだ。私はこれをヒントに新たな料理を考えることにした。

と言っても、なかなか簡単には思いつかなかった。だからまた、祖母に聞いてみることにした。お料理上手な祖母は、やはり頼りになる。どんな食材も工夫してうまく作れるのだ。

すると祖母は、「ごはんが見えなきやいいんじゃないか」と、答えた。私は、これだと思った。

さっそく家に帰り、ごはんが見えなくて、妹がおいしく

食べられるお米の料理を考え始めた。考えた末、「三色丼」に行き着いた。この頃妹は、離乳食を食べ始めてから四ヶ月たっていたので、母に聞いてから、初めて鶏肉を食べさせることにした。鶏肉にほんの少ししょうがを入れ、炒めてしょうゆをかけ、しみこませるためにアルミホイルで包んで焼いた。「三色丼」と言えば、卵とさやえんどう、鶏そぼろを入れるが、私はさやえんどうの代わりに妹の大好きな湯むきをし、細かく刻んだトマトを入れることにした。また卵にも一工夫して、牛乳を少し入れ、炒り卵にすることにした。そして、お米が見えないようにご飯の上にびっしり鶏そぼろ、炒り卵、細かく刻んだトマトをのせた。心を込め、丁寧に盛りつけた。私は、また気に入ってもらえなかったらどうしよう、そんな気持ちが少しあった。でも、妹に絶対お米を食べてもらいたいと思い、勇気を出して食べさせた。すると、妹は満面の笑みで食べてくれた。とても気に入ったようで完食どころか二杯も食べてしまった。私はうれしくて跳びはねた。

その日から、私の妹はお米が好きになった。今では、最初嫌がっていたしらすごはんも好きで、毎日のように食べるし、納豆巻、カレーライスなど食べられるものも増えた。私が、お米は重要なエネルギー源だから食べさせたいと思っているのを、妹はわかっているかもしれないけれど、私には、わかってもらえたように思えた。

私は、これから妹に農家の方々が一生懸命作ってくれる野菜や果物、そしてお米のありがたみ、そして食べられることそのもののありがたみ、また命を頂いて食べていることのありがたみを教えていきたい。

妹は今日も大きな口を開けてもりもり食べている。きっと明日も明後日もぐんぐん成長し続けるだろう。

「みのりのおにぎり屋」

こん の み の り
今 野 美乃莉

もりおか しりつむかいなか の しょうがっこう ねん
盛岡市立向中野小学校 3年



夏休み、八月八日のお昼ごはんは、たまに開店する、「みのりのおにぎり屋」のおにぎりです。

まず、自分でお米をといで、お米をたきます。ジャッジヤツ、ザツザツ。今日は暑いから、水がきもちよかったです。

お米がたけた後、サランラップにごはんをのせて、しおをかけて、しおおにぎりです。つつんでぎってでき上がり！、たきたてのごはんだから、あつあつでした。手がほかほかになりました。一回目だから、しおおにぎりは、わたしが味見として食べました。

「やっぱり、たきたては、味もちがうなあ。」

お米の一つぶ一つぶに、おいしさがかんじられました。

次は、お客さんのために、開店のじゅんびです。台所の前に、

・プレゼント ・しお ・しゃけ ・ふりかけ ・オスス

メ

と紙に書き、はりました。

さっそく開店です。お客さん一号は、母でした。母がたのんだのは、「プレゼント」でした。その中みは、実は、なっとうでした。うめぼしだと思っていた母は、おどろきました。

「うわあっ！な、なっとう?。」

と言った母のかんそうが、おもしろかったです。ほかのおにぎりは、

「おいしすぎるよ!。」

と言っていたので、ほっとしました。

さいごに、母が

「手に水を少しつけて、手にたっぷりしおをかけて、「あちちい。」と言いながら作るのが一番だよ!。」

と言うので、その通りに作って、食べました。

「自分で作ったのは、サイコー!!。」

明日の昼も、開店します。



総 評



審査委員長
岩手県教育委員会
委員長
委員

八重樫

勝

三十九回目を迎えたこのコンクールに、今年もたくさんのおすすめ作品が寄せられました。ありがとうございます。

このコンクールは、日本の主食であるごはんやお米について考えたこと、働くことや農業の大切さについて考えたこと、郷土や家族について考えたことなどについて、作文や図画に表現することを目的として実施されてきました。

小中学生の皆さんは、毎日の生活の中で、学習やスポーツ、お手伝い、読書、行事への取り組みなどやる事がたくさんあるはず。忙しい中時間を割いて作品づくりに力を入れてくれました。とてもうれしいです。

また、全校を挙げてこのコンクールのための作品づくりに取り組み、多くの作品を応募してくれた学校もありました。このコンクールに大きな期待を寄せていることが強く感じられました。

県の審査会は、第一次を十一月に行い、作文・図画それぞれ九点、合わせて十八点を全国コンクールに応募しました。

その結果、作文の部で陸前高田市立高田東中学校二年の佐々木恵利佳さんが全国中央会長賞を受賞。他に優秀賞二点。図画の部では優秀賞二点が入賞しました。岩手県の作品のレベルが全国からも高く評

価された証しです。

十二月に県の二次審査会を行い、各賞を決定しました。入賞した皆さん、指導に当たられた先生方、ご家族の皆さんにお祝いを申し上げます。

審査を通じて感じたこと。

〈図画の部〉

- ・主題（お米の大切さ）が全面に出ている画面が多く、訴求力のある作品で好ましい
- ・明るい色調と筆タッチばかりでなく、スパッタリング（霧吹き技法）等、多様な技法の工夫がなされ効果的
- ・特別支援学校からの応募が初めてあり、校種を超え、広がっていることがうれしい

〈作文の部〉

- ・小学生は学校や地域での米作り体験や家族（祖父母）・自分とごはんのかかわりを素直に表現している
- ・中学生は米作り体験や震災・自然災害とのかわり、農業に関する日本の現状など、社会と自分の生活を関連させて表現し、ものの見方考え方に広がりや深まりがある

「ごはん・おにぎり」を通して家族や友人等温かいふれあいの場面が様々に展開されている様子がよく分かり、その大切さを再認識することができました。

また、作品全体に前向きな明るさを感じられ、審査しながら温かい気持ちになりました。

丁寧に色を塗ること、丁寧に文字で書くことなど、米作りと同様、これからもしっかりと取り組んでいってほしいと願っています。

図画部門を審査して



元岩手県公立幼稚園協議会
会長
伊藤満久

伊藤満久

今回も画面いっぱいに元氣溢れる作品に接することができ、楽しく充実した審査をさせていただきました。

受賞された皆さん、おめでとうございます。伝統ある質的にも高いレベルを求められている本コンクールに応募された学校は、小中合わせて三十八校（応募総数二六七点）でした。この中には校内審査で厳選された想定される優れた作品も多くあり、各校の取り組みに感謝しながら次の観点で審査させていただきます。

- ①技法にこだわらず伸び伸びと楽しく描いているか（特に第一部）。
- ②主題が明確で効果的な表現方法を工夫しているか。
- ③表現力が高く訴求力が強いのか。

この観点で選定した九点を全国コンクールに推薦しましたが、全国の応募総数七八、一九三点から優秀賞に二点が受賞するという高い評価を受けました。本当におめでとうございます。

ここでは県コンクールで受賞した作品のうち主な作品について講評させていただきます。

全国の優秀賞と岩手県知事賞を受賞した小笠原詩織さん（大船渡市立吉浜中三年）の「お米を食べてスタミナアップ！」はクラブ活動中においておにぎりをおぼっている表情、人物のデッサン力、背景と近景の色調の強弱等完成度の高い秀作です。次に全国の優秀賞と岩手県教育長賞を受賞した藤原悠奈さん（花巻市立内川小一年）の作品「たきたてのごはん大すき」はできたばかりで湯気いっぱいのごはんを食べようとしている表情、今にも口から

「うわ！おいしそう！」と歓声が聞こえてきそうな迫力を感じます。

東北農政局盛岡地域センター長賞の鈴木智也さん（奥州市立前沢小六年）「バイキングでごはん」は、給食にそれぞれが好みのバイキング料理を仲良く食べている様子を斜めの角度から立体的に表現してあります。一人ひとりの動作、箸の持ち方等違う表現になるよう工夫している力作です。

J A岩手県五連会長賞を受賞した小笠原輝さん（北上市立黒沢尻北小六年）の「みんなで食べよう。」はカレーライスをおいしそうに囲んで食べている様子を象徴的に表現しております。

俯瞰した情景に人物が側面から、そして伸ばしている手を強調するなど独特な表現技法が大変印象的な作品となっています。

優秀賞を受賞した二人のうち、まず北上市立江釣子小一年川村幸葉さんの「ごはんはおいしい！」の作品です。画面いっぱいに大きくあけた口に大盛りのごはん、喜びが溢れています。同じく優秀賞の大平宝花さん（盛岡市立下小路中三年）「母のおにぎり」はしっかりとデッサン力に支えられた母と子のなごやかさが伝わってきます。母の表情、特に目が描かれれば更にその効果が倍加したと思われま

学校奨励賞は内川目小学校でした。同校は小規模校ながらも応募数が多く、教育長賞と佳作を受賞しており、その取り組みが高く評価されました。又今回は特別支援学校からの応募があり、お米の大切さ、そのことを描く喜びが校種を超えて広がっていることに大変うれしく思います。どの作品も主食であるごはんへの感謝の気持や家族への愛情の溢れる力作ばかりでした。

このコンクールがお米やごはんなど主食の大切さ、それを支えている農業の大切さを再認識するきっかけになるよう期待しております。

作文部門を審査して



盛岡市教育委員会学校教育課
指導主事
小林満

小林満

第三十九回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、今年もたくさん児童生徒の皆さんが応募してくださいました。また、毎年丁寧に作品を書き上げ、応募してくれる子どもたちも多く見られたいへんうれしく思いました。どの作品も、自分の生活と「ごはん・お米」とのかかわりについて、五感を通して感じたこと、考えたことをしっかりと綴られており、読み応えがありました。

岩手県知事賞を受賞した佐々木恵利佳さん（陸前高田市立高田東中学校二年）も毎年、作品を応募している生徒の一人です。これまでも数々の賞を受賞していますが、今年度は、厳しい全国の審査をくぐり抜け、全国中央会長賞を受賞しました。題材選定や構成が細やかに考えられており、一文を短くしたきれいのよい表現が光り、その巧みに圧倒されました。

岩手県教育委員会教育長賞を受賞した佐藤旭さん（宮古市立千徳小学校六年）の「世界で一番おいしいもの」はお姉さんの体験談をもとに、思ったことや感じたことを豊かな表現でまとめており、ごはん食に対する見方や考え方の深まりがよく伝わってきました。

東北農政局盛岡地域センター長賞を受賞した小山希来さん（一関市立室根東小学校三年）の「おじいちゃん、ありがとう」は、米作りに対して努力し続けるおじいさんに対する感謝の気持ちと、あこがれ

と愛情が素直に表現されており、心が温かくなりました。

J A岩手県五連会長賞を受賞した菊池みずきさん（奥州市立木細工小学校五年）の「お赤飯が伝える感謝の気持ち」は、赤飯作り、古代米の二つの事柄から、昔から引き継がれるお米の大切さや感謝の気持ちへ結び付けていく組み立てと叙述が見事で、家族の会話に引き込まれました。

優秀賞を受賞した今野美乃莉さん（盛岡市立向中野小学校三年）の「みのりのおにぎり屋」は、夏休みのお手伝いを通してお母さんとのふれあいや愛情がよく伝わってくる楽しい作品です。おにぎりの具の発想には、お母さんと同様びっくりしました。

同じく優秀賞を受賞した高橋尚佳さん（花巻市立南城中学校三年）の「妹のために」私のお米料理大作戦」は、妹のために、一生懸命食事作りに励む様子が詳細に書かれています。食事作りを通して家族の絆を深めて行く様子が伝わってきました。

これらの受賞作品の他にも素晴らしい作品がたくさんありました。どの作品からも、子どもたちのお米作りやごはん食・お米に関しての思い、家族の愛情がよく伝わってきました。特にも、お米と自分の生活の関わりを様々な視点でよく見つめている作品が多く見られたことに感心しました。また、震災の体験から、自分と食とのかわりを見つめ直し、表現している子どもも多く見られ、頼もしさを感じるとともに、うれしく思いました。

「お米・ご飯」などの食を見つめることは自分の生活・生き方を見つめる貴重な機会となります。今後多くの作品が寄せられることを期待します。

【全国コンクール】

◆優秀賞

藤原 悠奈	花巻市立内川目小学校	1年	「たきたてのごはん 大すき」
小笠原 詩織	大船渡市立吉浜中学校	3年	「お米を食べてスタミナアップ！」

【岩手県コンクール】

◆岩手県知事賞

小笠原 詩織	大船渡市立吉浜中学校	3年	「お米を食べてスタミナアップ！」
--------	------------	----	------------------

◆岩手県教育長賞

藤原 悠奈	花巻市立内川目小学校	1年	「たきたてのごはん 大すき」
-------	------------	----	----------------

◆東北農政局盛岡地域センター長賞

鈴木 智也	奥州市立前沢小学校	6年	「バイキングでごはん」
-------	-----------	----	-------------

◆JA岩手県五連会長賞

小笠原 輝	北上市立黒沢尻北小学校	6年	「みんなで食べよう。」
-------	-------------	----	-------------

◆優秀賞

川村 幸葉	北上市立江釣子小学校	1年	「ごはんはおいしい！」
大平 宝花	盛岡市立下小路中学校	3年	「母のおにぎり」

◆学校奨励賞

花巻市立内川目小学校			
------------	--	--	--

◆佳作

佐々木 柚葉	若柳小	3年	「やったあ ごはんだ」	水谷 実紀伽	洪民中	3年	「大切な一粒」
佐々木 大明	内川目小	2年	「たきたてのごはん大すき」	菊池 春花	見前中	1年	「じいちゃんのお米
佐藤 柚香	永井小	2年	「おじいちゃんのお米は				おいしいな」
			おいしいな」	小司 彩熙	見前中	1年	「おにぎりを食べながら…」
高橋 璃久斗	前沢小	1年	「ごはんはおいしいよ」	北田 葉里	見前中	1年	「昼食と私」
佐藤 凜	本宮小	2年	「岩手山の頂上で	岩田 友里香	見前中	1年	「ランチタイム」
			うまい!!おにぎり」	小野寺 さおり	一関清明支援	1年	「おにぎり
瀧澤 姫花	前沢小	1年	「おにぎり おいしいよ」				おいしかったよ」
			(中学部)				

稗貫 智佳子	黒沢尻北小	4年	「しろかきをする農家の人」
佐藤 旭	千徳小	6年	「キャンプでいただきます」
菊池 花凜	江釣子小	5年	「ごはん大好き」
佐藤 萌香	佐倉河小	5年	「おいしいごはん」
菅原 葉菜	衣川小	6年	「冷たくても
			米とぎがんばるよ」
藤原 想	飯豊小	6年	「お米を食べよう」

【全国コンクール】

◆全国農業協同組合中央会会長賞

佐々木 恵利佳 陸前高田市立高田東中学校 2年 「米づくり、そして文化」

◆優秀賞

小山 希来 一関市立室根東小学校 3年 「おじいちゃん、ありがとう」

佐藤 旭 宮古市立千徳小学校 6年 「世界で一番おいしいもの」

【岩手県コンクール】

◆岩手県知事賞

佐々木 恵利佳 陸前高田市立高田東中学校 2年 「米づくり、そして文化」

◆岩手県教育長賞

佐藤 旭 宮古市立千徳小学校 6年 「世界で一番おいしいもの」

◆東北農政局盛岡地域センター長賞

小山 希来 一関市立室根東小学校 3年 「おじいちゃん、ありがとう」

◆JA岩手県五連会長賞

菊池 みずき 奥州市立木細工小学校 5年 「お赤飯が伝える感謝の気持ち」

◆優秀賞

今野 美乃莉 盛岡市立向中野小学校 3年 「みのりのおにぎり屋」

高橋 尚佳 花巻市立南城中学校 3年 「妹のために〜私のお米料理大作戦」

◆学校奨励賞

一関市立室根東小学校

◆佳作

菊池 理子 玉里小 3年 「ごはんの神様」 藤島 日和 飯岡中 3年 「私たちの大切なもの」

菊池 怜史 木細工小 1年 「げんきひやくばい」 今野 朱音 南城中 3年 「おばあちゃんが

田中 愛子 越喜来小 2年 「ごはんをたべて にこにこえがお」 下澤 美空 北上中 1年 「私とお昼ごはん」

古山 凜音 田原小 2年 「はじめての田うえ大会」 千葉 朱璃 一関一高附属中 3年 「小麦より米を」

小野寺 蓮 室根東小 3年 「家族で楽しく米づくり」 小原 流花 南城中 2年 「日本の良き伝統

吉田 歩 千徳小 1年 「だいすきなごはん」 鈴木 青伍 一関一高附属中 3年 「『陸羽一三二号』

木元 小春 遠野北小 2年 「ごはん・お米とわたし」 四戸 結子 城東中 2年 「食事が果たす役割」

三松 夏輝 太田東小 4年 「おにぎりとおえがお」

山根 愛絵 津軽石小 6年 「お母さんのみそおにぎり」

菊池 飛鳥 木細工小 4年 「うちの米づくり」

佐藤 佑花 平泉小 5年 「日本といえばお米」

菊池美乃里 木細工小 4年 「ごはんで元気に」

鈴木 沙英 平泉小 5年 「今日もいただきます!!」

畠山 樹 中野小 4年 「大好きなお米」

第 39 回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクールの概要

応 募 点 数

学 校	作 文	図 画	合 計
小学校	47	209	256
中学校	53	58	111
計	100	267	367

応 募 締 切 日

平成26年 9 月10日

県コンクール第1次審査会

平成26年10月30日（全国コンクール推薦作品18点を決定）

県コンクール第2次審査会

平成26年12月5日

表 彰 式

平成27年 1 月29日 盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡 本館」

主 催

岩手県内 J A ・ J A 岩手県中央会

後 援

岩手県・岩手県教育委員会・東北農政局盛岡地域センター
いわて純情米需要拡大推進協議会・J A 岩手県信連
J A 岩手県厚生連・J A 全農いわて・J A 共済連岩手

審 査 員（敬称略）

審査委員長	八重樫	勝	岩手県教育委員会委員長
審査委員	伊 藤	満 久	元岩手県国公立幼稚園協議会会長
審査委員	小 林	満	盛岡市教育委員会学校教育課指導主事
審査委員	制 野	良 男	東北農政局盛岡地域センター総括管理官
審査委員	中 村	善 光	岩手県農林水産部流通課流通改善担当課長
審査委員	菅 原	和 則	J A 岩手県信連代表理事専務
審査委員	佐々木	辰 男	J A 岩手県厚生連常務理事
審査委員	小田島	利 昭	J A 全農いわて県本部長
審査委員	小 原	市右エ門	J A 共済連岩手県本部長
審査委員	畠 山	房 郎	J A 岩手県中央会常務理事

※このコンクールに対するご意見・ご感想をお待ちしております。

JA岩手県中央会 農業対策部 〒020-0022 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8522
ホームページ<http://www.ja-iwate.or.jp/> Eメールアドレス nosei-ko@jaiwate.or.jp

みんなの**力**で!



がんばろう!岩手

JAいわてグループ



発行/平成27年1月29日

企画・編集・発行/JA岩手県中央会

印刷・製本/川嶋印刷株式会社



さあ、みんなで取り組んでいこう。
やっぱり国産農畜産物推進運動
～みんなのよい食プロジェクト～